

1. 圏域の概要

(1) 水産業の概要

① 圏域内に位置する市町村および漁業協同組合の概要

- ・ 当圏域は、大隅半島の東岸と志布志湾に位置し、関係市町村は志布志市、大崎町、東串良町、肝付町の1市3町で、関係漁協は志布志漁業協同組合（令和2年度末組合員数97名、年間水揚高41トン、4千万円）、東串良漁業協同組合（令和2年度末組合員数129名、年間水揚高1,188トン、5.5億円）、高山漁業協同組合（令和2年度末組合員数66名、年間水揚高746トン、3.8億円）、内之浦漁業協同組合（令和2年度末組合員数154名、年間水揚高5,916トン、18億円）の4漁協である。

② 主要漁業種類、主要魚種の生産量、資源量の状況

- ・ 主な漁業は、まき網、底曳網、船曳網、定置網、刺網、一本釣漁業で、肝付町では魚類養殖業も営まれている。
- ・ 主な魚種は、まき網によるアジ・サバ等の浮魚類、底曳網によるハモ等の底魚類、船曳網によるシラス（イワシ類の稚仔魚）、定置網による浮魚・瀬物類、刺網によるイセエビ等で、魚類養殖ではカンパチの養殖が行われている。
- ・ 資源量については、他圏域と同様に漁獲対象種の資源状態が低迷しており、漁業生産量が減少している。

③ 水産物の流通・加工の状況

- ・ 水産加工は、アジ・サバやシラス等の浮魚類を原料にした塩干加工業が盛んに営まれている。
- ・ 圏域内の流通拠点は、内之浦漁港や志布志港において、漁協が開設・運営する地方卸売市場のほか、隣接する鹿屋市内で市と民間が開設する消費地市場がある。また、産地市場は、波見港の柏原地区（東串良町）、波見地区（肝付町）に、それぞれ漁協の開設・運営する市場がある。
- ・ 代表的なブランドとしては、「骨きりハモ」：志布志漁協がある。

- ④ 養殖業の状況
- ・ 波見港でブリ類の魚類養殖業（令和元年水揚量 315 t）、内之浦漁港でブリ類の魚類養殖業（令和元年水揚量 270 t）が営まれている。
- ⑤ 漁業経営体、漁業就業者（組合員等）の状況
- ・ 圏域の漁業を取り巻く環境は、養殖業にあつては、魚価の低迷、餌料・燃油資材等の高騰、漁船漁業にあつては、資源状況の悪化、魚価の低迷、燃油資材等の高騰により、非常に厳しくなっており、組合員数も年々減少し、高齢化の傾向にある。
- ⑥ 水産業の発展のための取組
- ・ マダイ等の放流事業や藻場保全活動による沿岸資源の維持・増大に取り組んでいるほか、直売所・レストラン（びろう、ロケット朝市など）の運営、ブランド化（骨きりハモ、イセエビ祭りなど）による水産物の付加価値向上や6次産業化に取り組んでいる。
- ⑦ 水産基盤整備に関する課題
- ・ 生産・流通・加工・販売の経済活動を支える水産基盤整備については、水産資源の維持増大を図るための水産環境整備を計画的に進めるとともに、産地市場の衛生管理対策、生産コストの縮減を図るための施設整備、及び、激甚化する台風等による浸水被害や南海トラフ地震等、切迫する巨大地震に対する漁港漁村の防災・減災対策が課題である。
- ⑧ 将来的な漁港機能の集約化
- ・ 今後、10年程度で圏域内の漁港施設について、統合や廃止、同一漁港内での機能再編の予定は無い。

(2) 圏域設定の考え方

① 圏域タイプ	流通拠点型	設定理由； 水産物を集約する産地市場を有する流通拠点港（内之浦漁港）でセリ等を行い、消費地や加工場へ出荷するタイプ。
② 圏域範囲	志布志市、東串良町、大崎町、肝付町	設定理由； 流通拠点港（内之浦漁港）へ水産物の集約が及ぶ範囲

③ 流通拠点漁港	内之浦漁港 (第4種)	設定理由； ・産地市場を有し、今後、労働環境改善のための岸壁への屋根設置と合わせ衛生管理対策を実施する。 ・災害発生後において、流通拠点として早期に漁港機能を回復させるため 漁港BCPを運用し、漁港利用者の避難対策を確立するなど大規模地震等に備えることとする。 ・漁獲物等に関する情報処理の迅速化を図るため、市場へのICT等の導入を検討する。
④ 生産拠点漁港	該当なし	設定理由；
⑤ 輸出拠点漁港	該当なし	設定理由；

(令和元年)

圏域の属地陸揚量(トン)	4,160	圏域の登録漁船隻数(隻)	348
圏域の総漁港数	4	圏域内での輸出取扱量(トン)	
圏域で水産物の水揚実績がある港湾数	2		

当該圏域を含む養殖生産拠点地域名	東大隅
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における主要対象魚種	ブリ類
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別生産量(収穫量)(トン)	585
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別海面養殖業産出額(百万円)	642

2. 圏域における水産基盤整備の基本方針

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

①流通拠点漁港等の生産・流通機能の強化

- ・ 流通拠点漁港である内之浦漁港においては、荒天時等の異常潮位により、陸揚げ岸壁や荷さばき所が浸水し、漁業活動に支障をきたしている。このため、係留施設や荷さばき所等の浸水対策を行い、安心・安全な漁業活動を確保し、安定的な水産物の供給を図る。
- ・ 陸揚げされる水産物の鮮度保持及び作業従事者の労働環境の軽減を図るため、岸壁へ防暑施設の整備を行う。
- ・ 岸壁への防暑施設設置に合わせて、内之浦漁港における衛生管理対策の取り組みを推進し、水産物の品質向上を図る。
- ・ 漁獲物等に関する情報処理の迅速化を図るため、市場へのICT等の導入に取り組む。

②養殖生産拠点の形成

- ・ 波見港や内之浦漁港でブリ類の養殖が行われている。
- ・ 今後、生産拡大等で漁場環境の改善や流通施設等の整備が必要な場合は積極的な支援を検討していく。

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

①環境変化に適応した漁場生産力の強化

- ・ 当該圏域は、大隅半島東部に位置し、周辺海域は好漁場が形成されるが、近年の長期的な海水温上昇などの漁場環境の変化が見られるとともに、漁獲対象種の資源状態は低迷しており、漁業生産量が減少している。
- ・ 今後、さらなる漁場環境の変化が予測されるなど、漁業生産量が減少する恐れがあることから、水産資源の回復及び増大を図るため、魚礁設置等による漁場の整備や漁場環境の保全に取り組んでいく。
- ・ 魚礁設置後に漁獲調査や蛸集状況調査等によるモニタリングを実施し、結果を検討して得られた知見を積極的に次の漁場整備に活かし、整備効果の向上を図る。

②災害リスクへの対応力強化

- ・ 当該圏域の流通拠点漁港である内之浦漁港は、大隅半島の東側に位置し直接外に面していることから、切迫する南海トラフ地震の影響が大きい。このため、南海トラフ地震等の大規模地震による被害の早期回復が必要であり、今後、陸揚げ岸壁の耐震・耐津波化や漁港BCPの運用など、大規模地震等に備えることとす

る。

- ・ 施設の老朽化が進み、補修・更新時期を迎える施設が多くなることから、「事後保全」から「予防保全」型への転換を図り、新技術の積極的な活用により、これまで以上にライフサイクルコストの縮減と予算の平準化を図る。

(3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

① 「海業」による漁村の活性化

- ・ 漁村地域では、高齢化・過疎化が進行し、浜の活力の低下が懸念されることから、地域が一体となったブルー・ツーリズムの推進体制づくりを促進し、農林水業や観光産業との連携強化による多様なネットワークやメニュー作りを行う。

また、都市住民等のニーズを把握し、漁村地域が持つ魅力について情報発信するとともに、漁業体験型の教育旅行の誘致や漁家での宿泊体験などの取組を促進する。

② 地域の水産業を支える多様な人材の活躍

高齢化・過疎化により漁業就業者数は減少傾向であることから、漁業就業希望者への就業情報や漁業情報の発信提供、各種研修の実施等により、漁業就業に意欲的な人材を育成し、将来の漁業生産の担い手を確保する。

また、漁業就業者等の労働環境の改善、利便性の向上を図る施設整備を行う。

3. 目標達成のための具体的な施策

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

① 流通拠点漁港等の生産・流通機能の強化

地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点
内之浦	流通機能強化	流通基盤	内之浦	4	内之浦

・ 内之浦漁港

係留施設や漁港施設用地等の高潮浸水対策を行い、安心・安全な漁業活動を確保し、安定的な水産物の供給を図る。

陸揚げされる水産物の鮮度保持及び作業従事者の労働環境の軽減を図るため、岸壁へ防暑施設の整備を行う。

② 養殖生産拠点の形成

地区名	主要対策	事業名	漁港・漁場名	種別	流通拠点
—	—	—	—	—	—

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

① 環境変化に適応した漁場生産力の強化

地区名	主要対策	事業名
鹿児島湾・大隅	資源管理	水産環境

・鹿児島湾・大隅海域

魚礁設置等により、水産資源の回復及び増大を図る。

② 災害リスクへの対応力強化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
内之浦	安心・安全	機能強化	内之浦	4	内之浦
船間	予防保全	機能保全	船間	1	内之浦
東風泊	予防保全	機能保全	東風泊	1	内之浦
夏井	予防保全	機能保全	夏井	1	内之浦

・内之浦漁港

機能診断結果を基に外郭施設や係留施設の耐震・耐浪・耐津波化の整備を進める。

・船間漁港外2漁港

持続可能なインフラ管理の推進として機能保全計画に基づき漁港施設の機能回復を図る。

(3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

① 「海業」による漁村の活性化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
全域	地域 活性化	ブルー・ツーリズム PR推進事業	全域		内之浦

・圏域漁港全域

農林水業や観光産業との連携強化による多様なネットワークやメニュー作りを推進。

都市住民等のニーズを把握し、漁村地域が持つ魅力について情報発信すると共に、漁業体験型の教育旅行の誘致や漁家での宿泊体験などの取組を促進する。

②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
全域		かごんま漁師育成 推進	全域		内之浦
全域		漁業生産の担い手 育成確保事業	全域		内之浦

・圏域漁港全域

漁業就業希望者への就業情報や漁業情報の発信提供、各種研修の実施等により、漁業就業に意欲的な人材を育成し、将来の漁業生産の担い手を確保する。

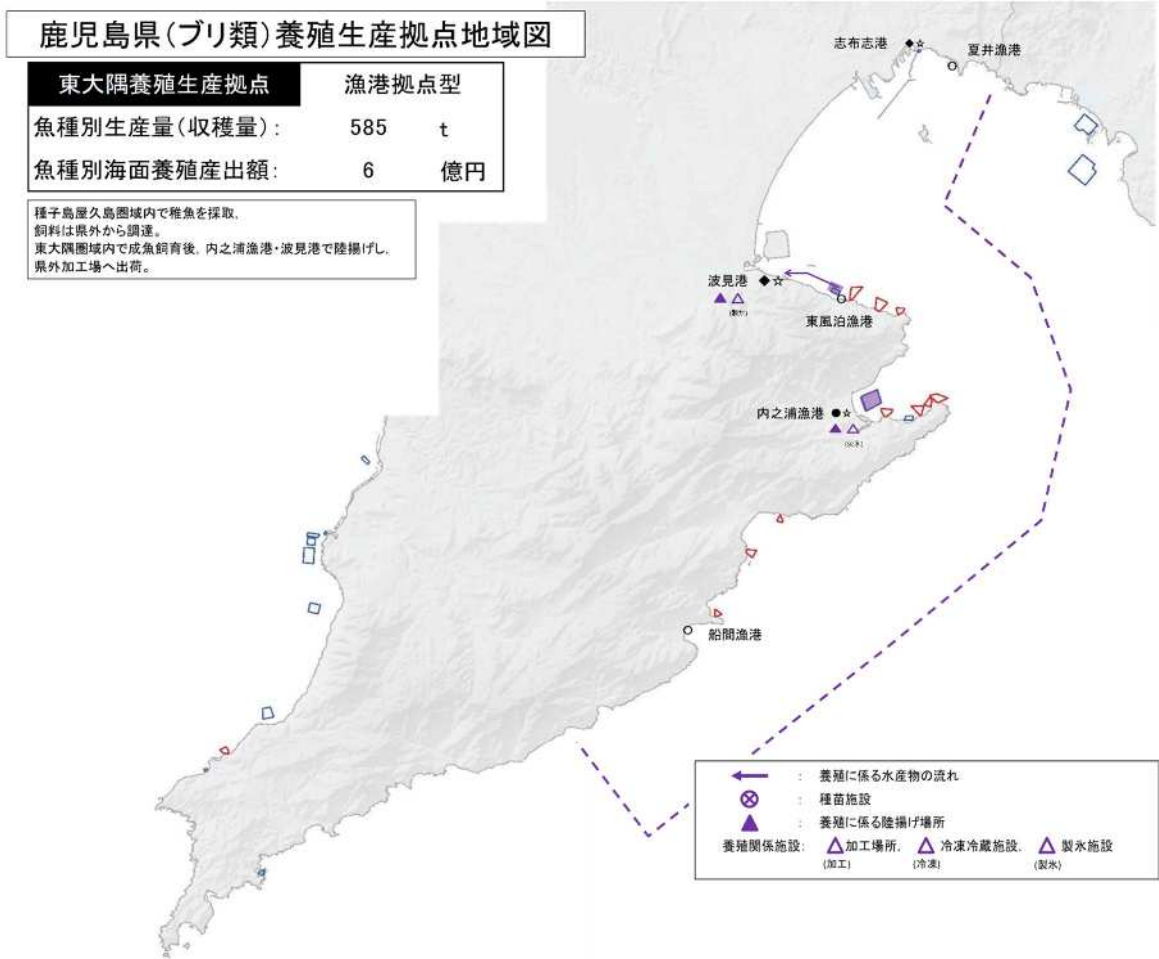
4. 環境への配慮事項

- ・ 当圏域沿岸は砂岩や岩磯などの変化に富んだ地形を有し、風光明媚な景観を形成している。整備にあたっては、環境に及ぼす影響はほとんどないものと考えられるが、必要に応じて事前調査を行う。

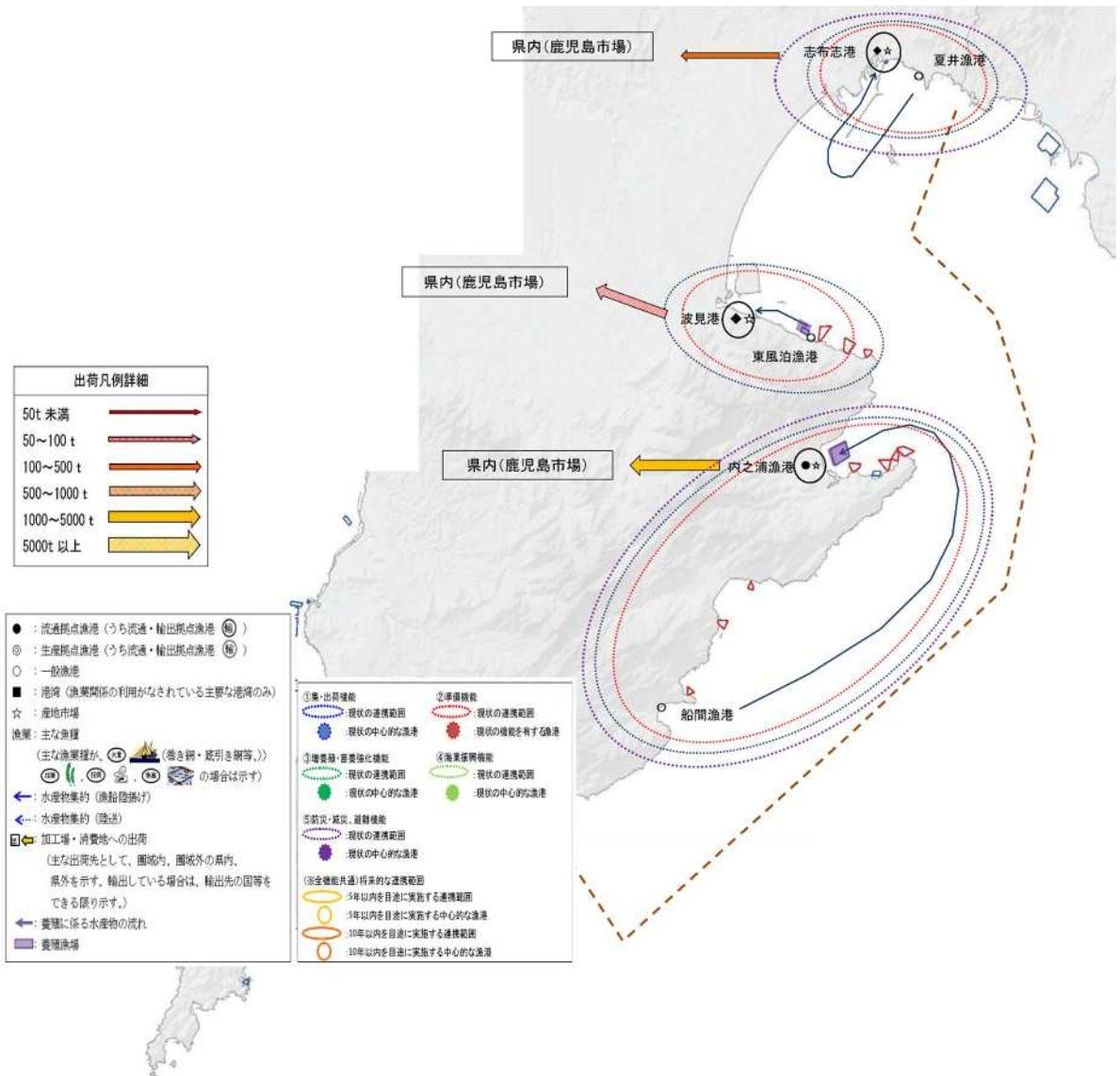
5. 水産物流通圏域図

別添、「鹿児島県 水産物流通圏域図」

6. 当該圏域を含む養殖生産拠点地域図



7. 漁港ごとの役割や機能分担及び漁港間での連携の状況を示す資料



8. その他参考となる資料